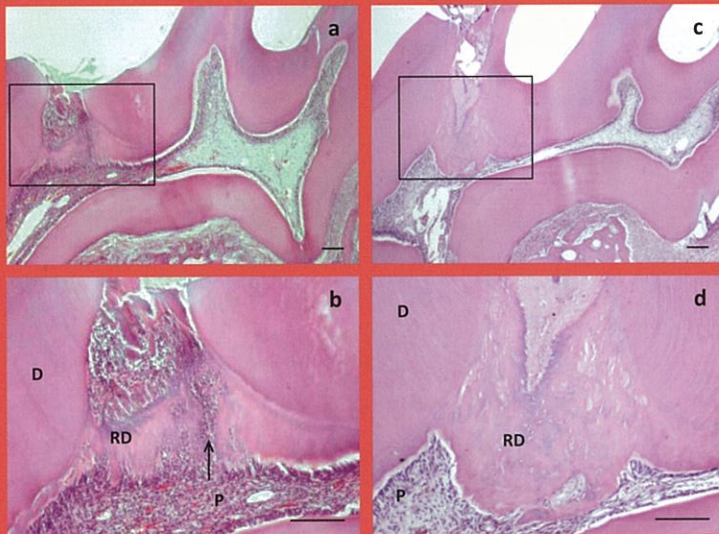


日本歯科評論

THE NIPPON DENTAL REVIEW



北海道医療大学歯学部
う蝕制御治療学分野
齋藤隆史先生 半田慶介先生
泉川昌宣先生 伊藤修一先生
〈私の研究室から〉より

〈特集〉

低侵襲をコンセプトとする インプラント治療の新たな可能性

寺西邦彦・小川隆広・金城清一郎・嶋田 淳・林 揚春・行田克則

〈シリーズ〉

歯科は誤嚥性肺炎を本当に予防できるのか?

結果を出すために知っておきたい誤嚥性肺炎の予防ストラテジー

1. 高齢者における誤嚥性肺炎の特徴

松井敏史ら

〈Special Issue〉

小児若年者のカリエスマネジメント

永久歯咬合面の長期経過から学ぶ

杉山精一

〈私の臨床〉

リスクファクターから考える歯周治療

ある歯周病患者の一症例から

齋田寛之

3

MARCH 2014
NO.857 VOL.74(3)

HYORON

<http://www.hyoron.co.jp>

Essay:

Rocking Chair

大好きな ラグビー仲間と共に

わたなべ ひろゆき
渡部 裕之

埼玉県上尾市/
わたなべ歯科医院

「先生、おめでとうございます！」
編集部から診療室への突然の電話に戸惑う自分。「母校・浦和高校の花園出場の件です」そうそう、そうでしたあ！ 何と54年ぶりに母校である浦和高校ラグビー部が、埼玉県代表として全国大会出場を決めました。54年ぶりって本当に東京オリンピック並ですね。

もっとも、私自身、高校時代はラグビー部どころか帰宅部でしたが……。いわゆる進学校ですが、ラグビーばかりかサッカーやボートなど、とても運動が盛んな学校でした。それだけに自分みたいな中途半端な者には、とてもとても入部できそうな雰囲気ではありませんでした。それでも、年末恒例の全校生徒参加のラグビー大会には、大張り切りで参加し、日頃たまった鬱憤^{うっぴん}を発散させていました。

他にも印象に残っているのは、体育祭の騎馬戦。これは本来1年生のための競技ですが、2年生・3年生

も観客席で騎馬を作って臨戦態勢。スタートの合図と共に、ほぼ全校生徒が参加する見ごたえのある騎馬戦でした。他人さまから、生まれて初めてげんこつで殴られたのも、この時でした。古き良き時代とは言いますが、みんなよく運動していたし、よく勉強していました。

大学入学後は「医歯薬系の小さい大学だし自分でもできるかなあ」という軽い気持ちでラグビー部に入部しました。ところがどっこい、当時の東京医科歯科大学のラグビー部は関東医歯薬リーグの堂々1部。部員が40人以上もいて、練習も自分にとっては相当ハードでした。

中でも、山中湖での夏合宿には、数々の強烈な思い出があります。グラウンドの汚れを部屋に持ち込んでしまうので、宿舎の中でも一番汚れる大部屋に30人近い男衆が、せんべい布団を寝床に1週間泊まり込みます。1年生の布団は“雑巾”と言われ、出入り口近くに敷きっぱなしのまま、足ふき代わりにされていました。部屋の中は、汗とホコリ、湿布や消毒薬の“芳香”が充満していました。



自転車部の仲間たちと（前列左が筆者）。

1年生から6年生まで、まさに同じ釜の飯を食い、リーグ優勝という同じ1つの目標に向かって一所懸命、それぞれ勉強より真剣にラグビーに取り組んでいました。

こうして団体競技ならではの連帯感が生まれ、そのつながりは卒後20数年経った今でも強いものがありますし、仕事のうえでも本当に役立っています。

昨年、このラグビー部のOB有志が自転車部を結成しました。ほぼ全員がロードバイク初心者ですが、昨秋には、荒川の土手沿いに80kmのロングライドも経験し、次のツーリングを計画中です。お揃いのジャージまでオーダーし、夢は海外でのツーリング。元ラガーマンのおじさんたちの夢は、まだまだ果てることはありません。

いろいろ怪我もしたけど、こんな仲間に出会えて……。やっぱりラグビーやって本当によかったなあ！

ご報告：仕事納めの日に、母校の応援に（大阪まで）行かせてくれた先生、スタッフの方々に感謝します。後輩を応援するつもりが、逆に勇氣と元氣をもらってきました。